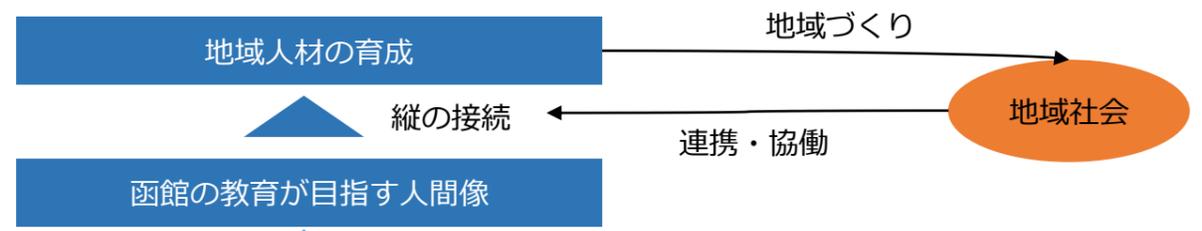


前回までの協議における主な意見について (これまでの意見を資質・能力の観点で整理したもの)



函館の教育が目指す人間像



価値観

- ・地域学習で得る知識によって、地域への愛が生まれる。
- ・地域貢献と教育を結びつけることが大切である。
- ・企業社会の要素が教育にも入っていくべき。(インターンシップ・OJT)
- ・社会に出てからの辛さなどを子どもや学生の頃に感じられるような教育も必要。

論理的思考力、創造力

- ・学びの基盤、学びの芽が出来上がる幼児教育の前段や幼児教育の時期への教育投資が必要。

基礎的・汎用的能力 社会的・職業的自立に向けて必要となる基盤となる能力

人間関係形成・社会形成能力

- ・チームでの学習は個々の能力が伸びる。中でもリーダーは特に伸びる。
- ・縦のつながりによる学び合いでそれぞれが伸びていく。
- ・学校と地域でそれぞれインプットとアウトプットをしながら社会性を結びつける。

自己理解・自己管理能力

- ・才能がある子どもと恵まれない環境にいる子ども、それぞれの個性を伸ばす。

課題対応能力

- ・自主的、主体的な問題解決能力を学校全体がどう一律に完成させていくか。
- ・様々な形で児童生徒を街に出て活動させる取り組みが大切である。

キャリアプランニング能力

- ・自らの学びを自ら設計することは知的な人間としての自立につながる。
- ・自らが開拓していく勉強の面白さを知る。

生きる力

確かな学力 豊かな人間性 健康・体力

- ・知識のアウトプットすることにより、自分の知識が確かなものになる。
- ・主体的に学ぶ楽しさや、やり遂げた喜びを味わうことができるような教育が大切。
- ・周りに感謝する心を育てる。
- ・恵まれない環境にいる子どもや特別な支援を要する子どもとその家庭への支援

意欲・態度

- ・学童保育所などインフォーマルな場でのつながりや学びの機会の充実が必要。
- ・不登校などの子どもの中にも、ある分野で優れた能力を持つ子どももいる。
- ・子どもたちは親に認められたい、褒められたいと思っている。
- ・周りに個性が認められる環境は、学習への意欲につながる。

課題 運動に熱心な子どもとそうでない子どもの二極化、家庭学習の時間が短い(スマートフォンなどの利用時間が長い)、特別な支援を要する子どもの増加、家に親がいない時間が長い生活習慣が改善できない、経済的に恵まれない子どもの増加、大学等への進学率が全国平均よりも下回っている など